

第5学年〇組 道徳学習指導案

平成19年 月 日 (〇曜日) 第〇時限 (: ~ :) 指導者 加藤 兼幸

1 主 題 名 病院の待合室 4－(3) 公正・公平, 正義

2 主題について

(1) 学級の児童の実態

本学級の児童は、きまりを守って、まじめに生活することができる児童が多い。また、男女の仲もよい。単学級で5年間過ごしてきていることから、学校での共通体験も多く、友達同士互いに気心が知れ、もめごともない。しかし、その反面、もめごとが少ないのは、友達以外の他者と真の意味で向き合っていないからだと感じることがある。ある時、「注意しようと思ったけど、相手が6年生だから言えない…」とつぶやいていた児童がいた。これは、気心が知れた友達ならきちんと注意できるが、年上や知らない相手に対しては自分が正しいと思っても言わずに我慢してしまうからと考える。また、「自分には関係ない」といった無関心や、「自分がしなくても、だれかが何とかするだろう」といった無責任な傾向の表れと考える。自分が正しいと思ったことをどんな相手に対しても堂々と言うことはなかなか難しいことである。

しかし、不正をそのままにせず何とかしたいという思いを児童一人一人にもってほしい。この思いをもつことが、社会において、よりよい世の中を実現させる原動力になると考える。

(2) 学習内容

本主題は、視点4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(3)「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正・公平にし、正義の実現に努める」に位置付けられている。これは、高学年で初めて出てくる指導内容である。

高学年ともなると、ある行為が正しいことか正しくないことであるかは、「規則を守っているかどうか」「うそがなく正直に行動しているかどうか」という判断基準をもとにして客観的に考えることができるようになってくる。しかし、実際に正義を貫くことは、なかなか難しいのも実感しているだろう。特に、相手が年上であったり、知らない人であったりすると、いけないことをしているのが分かっているのに、「自分は、やっていないからいいや」「自分がわざわざ注意しなくてもだれかが注意してくれるだろう」「仕返しが怖いから、やめておこう」などというように、自分の言動をおさえてしまいがちである。

これから最高学年を目指して成長していくこの時期に、不正に対して見て見ぬふりをするのではなく、自分の心の中に何とかしたいという思いがあることに気付かせることは意義深いと考える。そして、そのような思いを一人一人がもつことで社会における正義の実現につながっていくということに気付かせたい。

(3) 資料の解釈と取り扱い

本資料は、主人公の「わたし」が、病院の待合室に泥ぐつのまま平気で入ってきた中学生を見かけて注意しようかどうか迷った末、その中学生に思い切って注意をするという内容である。日常生活の場面を資料化したもので、不正を目の前で見たときに起こる児童のかつとうがよく表れている。公正・公平な立場で正義を実現するには、様々なかつとうを乗り越える強い意志が必要だろう。主人公が不正を許すことができずに、知らない中学生に対する恐れを感じ、見て見ぬふりをしてかまわないのではと迷いながらも注意しようと決断した気持ちをつかませ、主人公の心の中にある正義感を感じ取らせたい。

そのために本時では、次の三点を中心に主人公の気持ちの変化を考えるようにしていく。まず第一に、泥ぐつのまま平気である中学生に対して、主人公が思ったことや考えたことをはっきりさせ、中学生に対して注意をしようか、やめようかと迷う気持ちを感じ取らせる。第二に、主人公を決断に駆り立てたものが、入院している人のことを思い、たとえ中学生に対してでも、よくないことを見て見ぬふりをしていられないという正義の気持ちから生まれたものであることをつかませる。第三に、中学生を注意した後に噴水を見ている主人公の気持ちの中に様々な思いがあることを考えさせ、見て見ぬふりをしなくてよかったという主人公の気持ちを感じ取らせる。そして、よかったという気持ちの中には、自分だけの満足感だけでなく病院にいる人のためにもなったという主人公の正義感を感じ取らせる。

3 指導計画（1時間完了）

4 本時の指導

(1) ねらい

中学生のその場にふさわしくない行動に対して、みんなのことを考え、見て見ぬふりをしていられなくなった主人公の気持ちを感じ取り、不正をそのままにせず何とかしたいという思いを高める。

【発言・道徳プリント】

(2) 準備

読み物「病院の待合室」（明るい心 5年 県教振） 二人乗りをしている絵2枚
場面絵A・B 道徳プリント


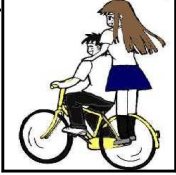
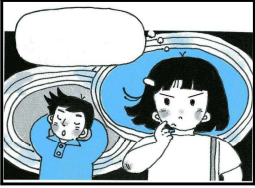

(3) 関連 6年「モントゴメリーのバス」

(4) 本時における話し合い活動について


本研究テーマである「子どもが本気になって考える道徳の授業」に迫るため、本時の授業の話し合い活動で特に留意するのは、次の点である。

- グループでの話し合い活動を取り入れることで、限られた授業時間の中、一人一人が自分の意見を発言し、友達の多様なものの見方や考え方にふれる機会とする。
- グループでの話し合い活動において、出される意見について児童同士で理由や根拠を問いつ返すことで児童相互の考えを深め、児童主体の活動とする。
- 「グループ→全体」という話し合い活動の流れが、グループ活動で出される多様な考え方をよりどころにして児童一人一人が本気になって考えることにつながる。

(5) 指導過程

時間	学習活動	教材等	教師の発問	予想される児童の発言や心の動き
5分	<p>1 二人乗りをしている絵を見て話し合う。</p>   <p>【二人乗りをしている絵】</p>	二人乗りをしている絵2枚	① 二人乗りをしている人にどんな声を掛けますか。	① ・二人乗りはよくないよ。 ・危ないよ。 ・倒れたらけがをするよ。 ・ルール違反だよ。 ・後ろに乗っている人はすぐに降りてよ。 ・幼い子には注意できそうだな。 ・年上の人には注意しにくいな。
30分	<p>2 資料「病院の待合室」を読み、主人公「わたし」の気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) スリッパに履き替えていない中学生を見たとき</p>  <p>【場面絵A】</p> <p>(2) 中学生に注意してきた理由</p> <p>グループでの話し合い</p>  <p>【場面絵B】</p>	場面絵A	<p>② 泥ぐつのままの中学生をにらみつけたとき、「わたし」は、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>③ 許せない相手なのに「わたし」は、どうしてすぐに注意することができなかったのでしょうか。</p> <p>④ 相手が中学生なのに「わたし」は、どうして注意をすることができたのでしょうか。</p>	<p>② ・入り口にちゃんと書いてあるのに許せない。 ・中学生なのに、いけない。 ・ルールを守ってよ。 ・はずかしくないのかな。 ・他の人に迷惑だ。</p> <p>③ ・相手が中学生だから。 ・はずかしいと思ったから。 ・もしも注意したら仕返しされそうだから。 ・なにも私が注意しなくてもいいと思ったから。</p> <p>④ ・このままでは許すことができない気持ちになってきたから。 ・注意しようとする勇気がわいてきたから。 ・平気でルールを破っているので腹が立つから。 ・病院は清潔にしないといけないから。 ・中学生のやっていることに黙ってられないから。</p>
<p>－話し合いの進め方－</p> <p>① <u>意見を発表する。</u></p> <p>② <u>出された意見について理由や根拠を尋ねる。</u> 「どうして、そう思ったのですか」 「今言ったことをもう少し詳しく教えてください」</p> <p>③ <u>話題を広げる。</u> 「他に意見はありますか」 「〇〇さんの意見についてみなさんはどう思いますか」</p>				

指導上の留意点（★は配慮を要する児童への働きかけ）	評価の観点と方法
<ul style="list-style-type: none"> ○ 最初に幼い子が二人乗りをしている絵を提示する。その後年上の人二人乗りをしている絵を提示して児童の興味を引くようにする。 ○ 二人乗りをすることは、事故につながりやすく、危険であることを確認する。 ○ 2枚の二人乗りをしている絵を見比べて、自分がいけないと思ったことでも、相手によって対応が違ってくることに目を向けさせるようにする。 ○ 教師が読み聞かせた後、登場人物である中学生の様子について質問をしながら確認していき、資料の内容把握を助ける。 ○ 「にらみつけた」という言葉に注目させ、泥ぐつのままの中学生に対して主人公の考えたことを想像させるようにする。 ○ 主人公の考えたことを想像しやすくするために、明るい心の挿絵から主人公の表情を変えた場面絵Aを提示する。 ○ 病院内であることを確認し、清潔にしないといけない場所であることを押さえる。 ○ 「のどがからから」「顔から血が引いた」などの言葉に注目させ、主人公の強い迷いを想像させるために教師が資料の一部(P. 12)を再度読み聞かせる。その後、主人公が注意するところまで読み、場面絵Bを黒板にはる。 ○ 4～5人のグループに分け、司会者と話し合い時間（4分）をあらかじめ知らせ、注意することができた主人公の気持ちについて話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がいけないと思ったことでも、相手によって対応が違ってくることに気付くことができたか、発言内容、話を聞く態度や表情からつかむ。 ○ 中学生のその場にふさわしくない行動に対して、見て見ぬふりをしていられなくなった主人公の気持ちを、グループの話し合いと全体の話し合いにより、より深く見詰め考えることができたか、発言内容や話し合いへの参加態度（話を聞く様子・視線・うなずき）からつかむ。
<p data-bbox="140 1592 922 1630">【「話し合い活動」を充実させるための教師の働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出された考え方は認め合うようにし、グループ内の児童同士で理由や根拠を尋ねさせたり、話題を広げるよう質問させたりするといった「話し合いの進め方」をもとに取り組みさせることを確認する。 <p data-bbox="124 1868 938 1989">★ 話し合いが進んでいないグループがあれば、教師が話し合いの進め方を助言したり、もう一度発問をしたりして、話し合いを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いが終わったグループは、出された意見にはどのようなものがあつたか確認するよう指示する。 	<p data-bbox="959 1536 1473 1574">グループでの話し合いにおける評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「話し合いの進め方」をもとにして取り組み、グループ全員が発言できたか、発言内容と話し合っている様子からつかむ。

時間	学習活動	教材等	教師の発問	予想される児童の発言や心の動き
	全体での話し合い			
	予想される児童の発言や心の動きと「問い返しの発問」の例			
				<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>平気でルールを破っているの で、腹が立ったから。</p> <p>～問い返しの発問～ 注意したら仕返しされるかも しれないよ。</p> <p>正しいのはわたしだからこ わがってはいけないと思う。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>病院は清潔にしないとけ ないから。</p> <p>～問い返しの発問～ どうして清潔にしないとけ ないのかな。</p> <p>病院にいる人たちに迷惑が かかるから。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>中学生のやっていることに 黙ってられないから。</p> <p>～問い返しの発問～ もし黙っていたら、どんな気 持ちになりますか。</p> <p>このまま注意しなかったら、 自分に悔いが残ると思う。</p> </div> </div>
				<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%;">  <p>【中学生の絵を加えた場面絵B】</p> <p>(3) 中学生を注意し た後の気持ち</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>⑤ 中学生がその場か ら去った後、噴水を 眺めていた「わたし」 はどんなことを考え たのでしょうか。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>⑤・緊張したけど、ほっとした。 ・大声を出して恥ずかしい。 ・言えてスッキリした。 ・中学生を怒らせてしまった かな。 ・見て見ぬふりをしなくてよ かった。</p> </div> </div>
7分	3 主人公と自分を比 べ、自分自身につい て見つめ直す。	道徳プ リント	⑥ 主人公のように見 て見ぬふりができな くて、どうしようか 迷ったことには、ど んなことがあります か。そのことについ て今、振り返ってみ ると、どんな気持ち かを書きましょう。	⑥・レジで並んでいたら横入り した人がいて、迷ったが「並 んでますよ」と言った。緊 張したが知らない人にも言 えてよかったと思った。 ・車からたばこのポイ捨てを している人を見かけた。す ぐに行ってしまったので言 えなかった。環境問題もあ るので悔しかった。
3分	4 教師の説話を聞く。		⑦ こんな記事があっ たので紹介します。	⑦・見て見ぬふりをせず、何と かしたいという気持ちが大切 なんだな。
	<p>市バスの中で携帯電話で話している男の乗客を注意した運転手さんがいました。ところがその乗客は言い返して文句を言い出しました。その時、女の人が立ち上がって、きっぱりと注意しました。すがすがしい緊張感が一瞬ただよい、じっと見守っていた他の乗客からほっとした声が聞こえました。その時には言いたくても言えなかったり、できなかつたりする場合もあるけど、一人一人が、その場にふさわしくない行動に対して「わたしは関係ないから」や「ぼくのせいじゃないから」ではなく「許せないな」という気持ちをもって生活することが大切だと思います…</p>			

指導上の留意点（★は配慮を要する児童への働きかけ）	評価の観点と方法
<p>○ 全体で話し合いをするため、机の配置をコの字型にするよう指示する。</p> <p>○ グループの代表が意見を発表するというスタイルではなく、グループで出た友達の意見なども含めて自由に発言させる。そして、出た意見を受けて自分の意見を立って話すように指示する。教師は話し合いを聞きながら、要点を板書する。</p> <p>【「話し合い活動」を充実させるための教師の働きかけ】</p> <p>○ 出された意見の中で、ねらいに迫る左記のような内容を取り上げ、問い返しの発問をしながら、さらに深く考えさせるようにする。</p> <p>○ 主人公が注意するに至った気持ちは一つだけではなく、多様な思いがもとになっていたことを押さえる。</p> <p>○ 仕返しの怖さにこだわる児童に対しては、その思いを認めながら受け止める。そして、「それでも『わたし』は、中学生に対して注意したんだよね」と確認し、見て見ぬふりをしなくてよかったという気持ちを想像させる。</p> <p>○ 自分一人の満足した気持ちだけでなく、みんなの役に立ったという満足感を押さえる。</p> <p>○ 資料にある特定の場面から離れ、日常生活で主人公のように不正を正した経験を尋ね、数人の児童に発表させる。なければ、教師が生活場面から例を紹介する。それから、自分のこれまでの経験を思い出し書くようにする。</p> <p>★ 経験がない児童や思い出せない児童には、不正を正した人を見た経験を書くように声を掛ける。</p> <p>○ 教師の説話では、バスの中での出来事を話して、正義の行為のすがすがしさを伝え、いつも不正を正す行動ができるわけではないが、何とかしたいという気持ちを一人一人がもつことが大切であることを感じさせるようにする。</p>	<p>評価の観点と方法</p> <p>全体での話し合いにおける評価について</p> <p>○ 自分の考えをもって話し合いに参加しているか、発言内容と話し合っている様子からつかむ。</p> <p>○ 自分の心の中に、不正をそのままにせず何とかしたいという思いがあることに気付くことができたか、プリントへの記述内容や発言内容からつかむ。</p> <p>○ 不正をそのままにせず何とかしたいという思いを一人一人がもつことが大切であることを感じることはできたか、話を聞く態度や表情からつかむ。</p>

(6) 座席表 (5年生: 25名)

導入～グループでの話し合い活動前まで

通常の座席 (全員が黒板の方を向いて座る。)

グループでの話し合い活動時

(矢印は、児童の向き。)

【 黒 板 】

→	←
→	←

↑

全体での話し合い活動時

【 黒 板 】

→	→

←	←

↑				↑
↑				

(7) 板書案

病院の待合室

わたしの気持ち

中学生をにらみつけたとき

- ・入り口にちゃんと書いてあるのに許せない。
- ・中学生なのにいけない。
- ・ルールを守ってよ。
- ・はずかしくないのかな。
- ・入院している人に迷わくだ。

すぐ注意することができなかったわけ

- ・相手が中学生だから。
- ・仕返しされそうだから。
- ・はずかしかったから。

中学生をにらみつけたとき

- ・勇気がわいてきたから
- ・他の人のことを考えていないから。
- ・腹が立つから。
- ・いけないことはやっぱりいけないから。
- ・清けつにしないと病院にいる人に迷わくだから。
- ・このままでは中学生のためにならないと思ったから。

噴水をながめていたとき

見て見ぬふりをしなくてよかった。

のどがからから

顔から血が引いた

どうして注意をすることができたのか

(8) 備考

【道徳プリント】

道徳プリント 「病院の待合室」 名前 ()

主人公のように見て見ぬふりができなくて、どうしようか迷ったことには、どんなことがありますか。そのことについて今、ふりかえてみるとどんな気持ちですか。

病院の待合室

ある日曜日の朝、おじさんが交通事故で入院したというので、びっくりして、母といっしょに、病院へ見まいに出かけました。

手と頭をほうたいでまいてベッドでねているおじさんを見たときはびっくりしましたが、思ったより元気なので安心しました。母とおじさんの話が長くなるようなので、わたしは、待合室へ出て行きました。

何もすることがなく、庭のふん水をぼんやりと見ていると、中学生らしい男の子が、お母さんといっしょに入ってきました。

その人も見まいらしく、お母さんは、急いでスリッパにはきかえて病室の方へ行きました。

ところが、男の子は、くつのまま、待合室のいすにすわってしまったのです。見ると、くつには、少しどろがついています。

(いやな人ね。スリッパにはきかえること知らないのかしら……。いや、入り口にもちゃんと書いてあったし、中学生なら、病院は清潔にしなければいけないことくらい知っているはず……。)

わたしは、男の子をにらみつけました。でも、男の子は、知らん顔をして、くつのままですわっています。

(注意しなくて……。)

と思ったとたん、わたしのむねはドキドキしました。そして、

(なにも、わたしが注意しなくても……。)

というささやきが、心のどこからか聞こえてくるのです。見て見ぬふりをすれば、すむことなのです。

でも、入院している人たちのことを思うと、わたしたちまでが土足でよごされているような気がして、とても、このままゆるすことができない気持ちになってきました。そして、思いきって注意しようとしたのですが、のどがからからになって、声が出ません。顔から、すうっと血が引いていくのさえわかります。

(どうしよう、どうしよう。)

そのとき、何かの時間で、同じような場面が出ていて、発言したのを思い出しました。そのとたんに、わたしは、

「げた箱のそばに、『スリッパにはきかえてください。』と書いてあったでしょう。」

と、さげんでしまったのです。わたしは、自分で自分の声の大きさにびっくりしてしまいました。男の子は、

「うるさいなあ。」

と言って、わたしの顔をにらみつけ、スリッパにはきかえると病室の方へ行ってしまいました。

わたしは、ドキドキしているむねをおさえようとしながら、また、庭のふん水をながめていました。

【明るい心5年:愛知県教育振興会】〈道徳研究委員会作〉